

主催：東京外国語大学・総合文化研究所 協力：ヤマハ株式会社，東京外大ミクライブ研究会
共催：東京外国語大学・学際研究共創センター

なぜ私たちは合成された声に惹かれるのか

： VOCALOID開発者・剣持秀紀氏に聞く

合成された歌声は、なぜ多くの人々の心をつかむのか。

VOCALOID開発者・剣持秀紀氏に、開発秘話と多文化共生の可能性をうかがいます。



2026年7月3日
16:00-19:30

実施会場：東京外国語大学・アゴラグローバル

企画者：田島充士（東京外国語大学）

講演者：剣持秀紀（ヤマハ株式会社）

ゲストボカロP：emon(Tes.)

コメンテーター：入江哲朗（東京外国語大学）

入場無料・事前登録制
(定員に達した場合、申込受付を終了いたします)



剣持秀紀氏



emon(Tes.)氏



←事前登録はこちら

本講演は、独立行政法人日本学術振興会・科学研究費補助金・基盤研究C（課題番号26K06535）の助成を受けて実施する。

Art by NANA © Crypton Future Media, INC. www.piapro.net **piapro**

なぜ私たちは合成された声に惹かれるのか ：VOCALOID開発者・剣持秀紀氏に聞く

コンセプト

東京外国語大学がその実現を目指す「多文化共生」。「文化」を多様な考え方や価値観の総体と捉えるならば、ネットカルチャーの広がりも多文化共生の一形態といえよう。そして多文化共生の実現におけるアートの重要性は、多くの識者が指摘する。

歌声を合成できる「VOCALOID」は、世界中の人々の関心を引きつけ、いまなお発展を続けている。本講演では、このVOCALOIDを開発した剣持秀紀氏をお招きし、歌声合成技術の開発秘話と、それが切り拓いたアート実践、さらに未来の多文化共生の可能性についてご講演いただく。

本講演では、「なぜ私たちは合成された声に惹かれるのか」という点に着目する。合成された声による楽曲には、歌手の感情表現に規定されにくく、聴き手の多様な解釈を許容する傾向があるとされる。多様な文化的背景をもつ人々が集うネットにおいて、こうした音声表現は、アート媒体として多文化共生を実現してきた可能性がある。

音楽制作やネットカルチャーに関心をもつ方はもちろん、本学が探求目標として掲げる多文化共生の実現に関心を寄せる方の参加も広く歓迎する。

*「VOCALOID（ボーカロイド）」および「ボカロ」はヤマハ株式会社の登録商標です。

講師紹介：剣持秀紀

ヤマハ株式会社 研究開発統括部 主席技師。歌声合成技術およびその応用ソフトウェア「VOCALOID」の開発を主導したエンジニア。人の歌声をコンピューターで再現する技術は、多くのリスナーをクリエイターへと導き、新たな創作文化の形成に大きな役割を果たした。「VOCALOIDの父」と称される。

ゲストボカロP紹介：emon(Tes.)

音楽プロデューサー。2007年よりネットミュージックシーンで活動を開始。VOCALOID楽曲「どりーみんチュチュ」などで知られ、他アーティストの楽曲編曲やアイドル、ゲームなどへの楽曲提供まで幅広く手がける。

実施時期：2026年7月3日（金曜日）

実施時間：16：00-19：30

企画者：田島充士（東京外国語大学）

講演者：剣持秀紀（ヤマハ株式会社）

ゲストボカロP：emon(Tes.)

コメンテーター：入江哲朗（東京外国語大学）

実施会場：東京外国語大学・アゴラグローバル（プロメテウスホール）

一般公開・入場無料・事前登録制（定員300名程度：右のQRコードより申込み）

* 事前申込者が定員を超える場合、申込みをお断りする場合があります。

